

市内循環バスの定額乗車券の販売について

1. 現状及び検討事項の整理

(1) 和光市内循環バスの現状

利用者数や運賃、収支率等については前年度と比較して改善傾向にある一方、収支率については目標値に未達状況であり、更なる増収を図るため、利用者の利便性向上が課題となっている。

(2) 本日の検討事項

和光市内循環バスの利便性向上のため、定額乗車券制度の導入について、運用や販売の方法、価格、導入スケジュール等の検討を行ってきた。本日の会議において、当該検討内容について御意見をいただくとともに導入に向けた検討を行う。

2. 定額乗車証導入検討の経緯

(1) 検討の経緯

- ・ 「市内公共交通等のサブスクリプション化の検討・研究」による、市内循環バスの利便性向上策検討に併せ、その都度払いによる手間が課題となっていた定額乗車券の導入についても検討を行った。
- ・ 優待乗車券利用者については、都度払いにも慣れてきており、定額乗車券導入意向は低かったことから、市内循環バス利用者の約 6 割である、一般利用者に向けた電子チケットの実証を検討する。

(2) 導入方針

- ・ 販売時の課題や事業開始までの効率性、印刷費用、将来的な展開性を考慮し、電子決済及び電子チケットの購入を検討する。
- ・ 対象者を一般料金の利用者とすることから、定期券タイプの定額乗車券について実証を行う。
- ・ 実証及び評価検証作業を重ね、将来的には優待乗車証利用者に向けた定額乗車券の導入に向けた検討も行う。

3. 販売価格の検討

- ・ 販売価格については、都度払いの自己負担額や近隣バス事業者の定期券価格を参考に検討した。
- ・ 毎日のように利用する方にメリットがある価格であり、かつ路線バスの定期券価格と格差が生じないことに加え、優待乗車証利用者の運賃との価格差も考慮し、下記のとおり想定する。

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月
定額乗車券価格	8,100 円	23,090 円	43,740 円

4. 効果及び評価検証

- ・ 定額乗車券の導入による利便性向上により、乗車機会創出に伴う利用者の増加が期待される。
- ・ 事業の効果については、実証期間終了後に評価・検証を行う。また、課題や改善点等を整理し、次期実証期間に向けた見直し事項等についても検証する。

5. 導入スケジュール

- ・ 第 1 期実証期間(令和 8 年 1 月～6 月末)と第 2 期実証期間(令和 9 年 1 月～6 月末)に分け、各期間において価格や販売方法等について評価・検証を行い、段階的な改善・改良を図る。
- ・ 第 2 期実証期間終了後は、実証結果を踏まえ、優待乗車証利用者に向けた制度等についても本格導入の可否等について検討する。